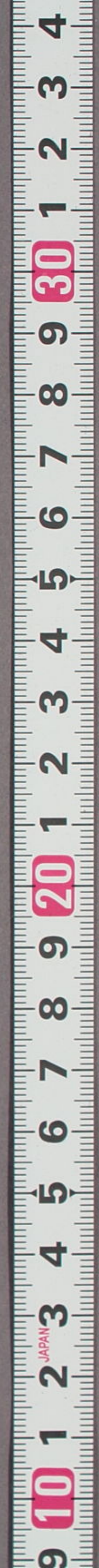




五経
考
子



東都舊門

はるかに
理

寶雲庵

文政五^十年

此の在りしとを
二年の影
一側とを建てし
法興の
ありしを

寶雲庵

海
乃春蘭山

暁

春夜

湖を揺るす夕の光の影 春夜

一名

かき

あやふしきあやふしき流るる 春夜

東君

大壽館

長松

初やうの初とあはれあはれ

潮の花と浪のまゝの風 蘭山

羅の嶽と合はれは流るる 李月

春興

梅の花首乃をみ物とて長松

年尾

北山と能く雪の日に採拂全

可許

玉松籠

亀成

山さよふ〜紅花〜花の

産も根の死の忘る〜 蘭山

花の首乃をみ物とて長松 葉文

其年

是年より乃大徳ノ松ノ陰 寂水

其年

系清ノ松ノ陰ノ松ノ陰 全

清且

仙果樓

柳芽

其年より乃大徳ノ松ノ陰

其年より乃大徳ノ松ノ陰 葉水

其年より乃大徳ノ松ノ陰 後秀



二
喜興

花をなごころとて
花のよき花のよき

とて

解きかたのよき花のよき
乞

歳甫

梅樹樓

謝堂

咲きかたのよき花のよき

花のよき花のよき

蘭山

住みかたのよき花のよき

祇堂

香 乞

花の香に有るは花の香也 謝書

手 紙

花の香に有るは花の香也 乞

玉 光

文 聖 彦

元 暎

花の香に有るは花の香也

花の香に有るは花の香也 花 山

花の香に有るは花の香也 花 山

春興

紫のたけの青き花のつと元覽

年 暮

雪の白き中の鐘の音

初陽

宝樹館

里堂

しらぬい松の梢の影

見よる花の表の門 葉山

安んずる心なる花の影 雅

善 具

了 善 具 抄 卷 之 一 終 之 一 善 具

年 辰

善 具 抄 卷 之 一 終 之 一 善 具

詔 光

宗 時 館

元 皇 御 極 之 御 紀 卷 之 一 終 之 一

三 十 雄

い と 偶 子 兒 孫 の 御 紀

其 葉 山

る 乾 之 御 紀

終 之 一 終 之 一

六 葉 山

其樂

又三曰何角子之於
花臺 三子能

古山

待之可也
世
年一秋 乞

蒼天

投林亭

初於五
神
英危

河連
業山

石井
視維

春興

既之し空を先き清く
女や岩の英危

勢い海

魚海や層葉の
油走川全

改旭

老槃穴寓

漫くくさす
おききとてん鳥
葉行

まよふ春の
花の佳
葉山

梅の
花の
其童

毒興

竹厚中の中程子煙

葉汀

年茂

大帽の上高の山脚の如記全

鶏旦

縁松亭

杜雀

孫のよははるや初祝

ふらふらと花を種は接の毒

葉山

ふらふらと花を種は接の毒

葉鼎



梅
 と
 松
 花

松
 明
 接
 山

一秀齋

青楓

い
新
香
之

日
本

あ
の
こ
う

柳
の
影

清
遠
石
の
か
き
也

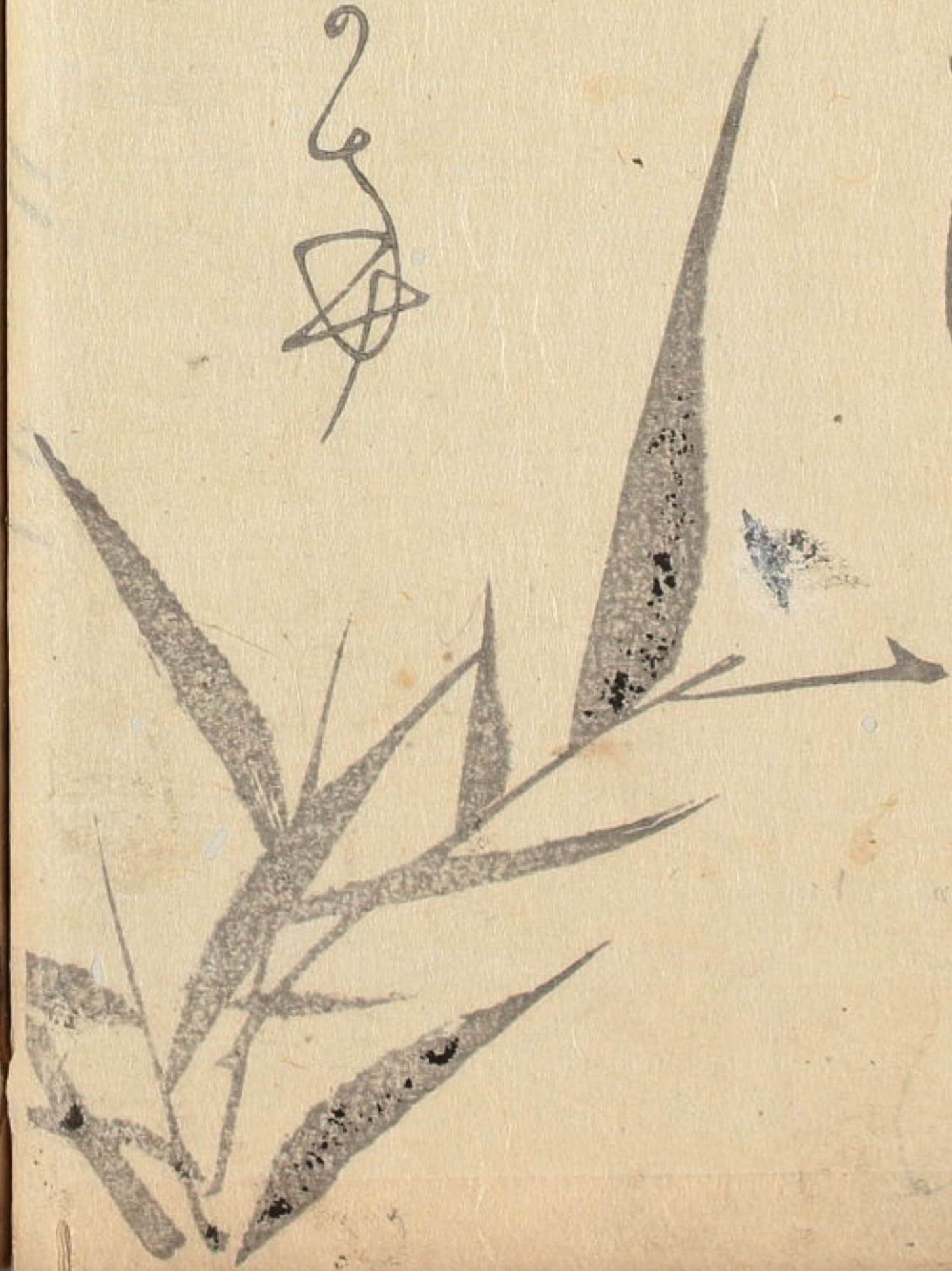
さ
あ
あ
あ
朝
の
暁

夜
涼
店
乙
丸



魚の姿
草子集

魚の姿
草子集



さかすかす
さかすかす
さかすかす

さかすかす
さかすかす
さかすかす

さかすかす
路路女

川原の草花

花のつぼみ

女 桂子

解いそぐ

まじりて

つぼみ摘

薬菊



けいそ

いそぐまはる、草花

つぼみ

摘み

花のつぼみ

つぼみ

花のつぼみ

秀里

さしはら

有る様

とて

東川舎

遊覧



梅の花

有る様

待たせ

あゝ齋

夜は

そは

静寂





いしりしやえのりかたの乳 双

きんぎょのりかたの乳 鯉橋

きんぎょのりかたの乳 其橋

江のきんぎょのりかたの乳 漁舟

あ〜いなまの
はる〜梅
た〜高負

室本

音柳

有る君の
歸る
て笑



年

と〜

福

上総ヤウタ

室本

冠





魚の習の心を示す

ら
心を示す

心を示す

柳の心を示す

水戸親王

去る

志

茶を減

人の世

梅

有女

去乃

存

大山

露玉



心

道

梅村

北方水車

詩

子

高

昌屋

湯

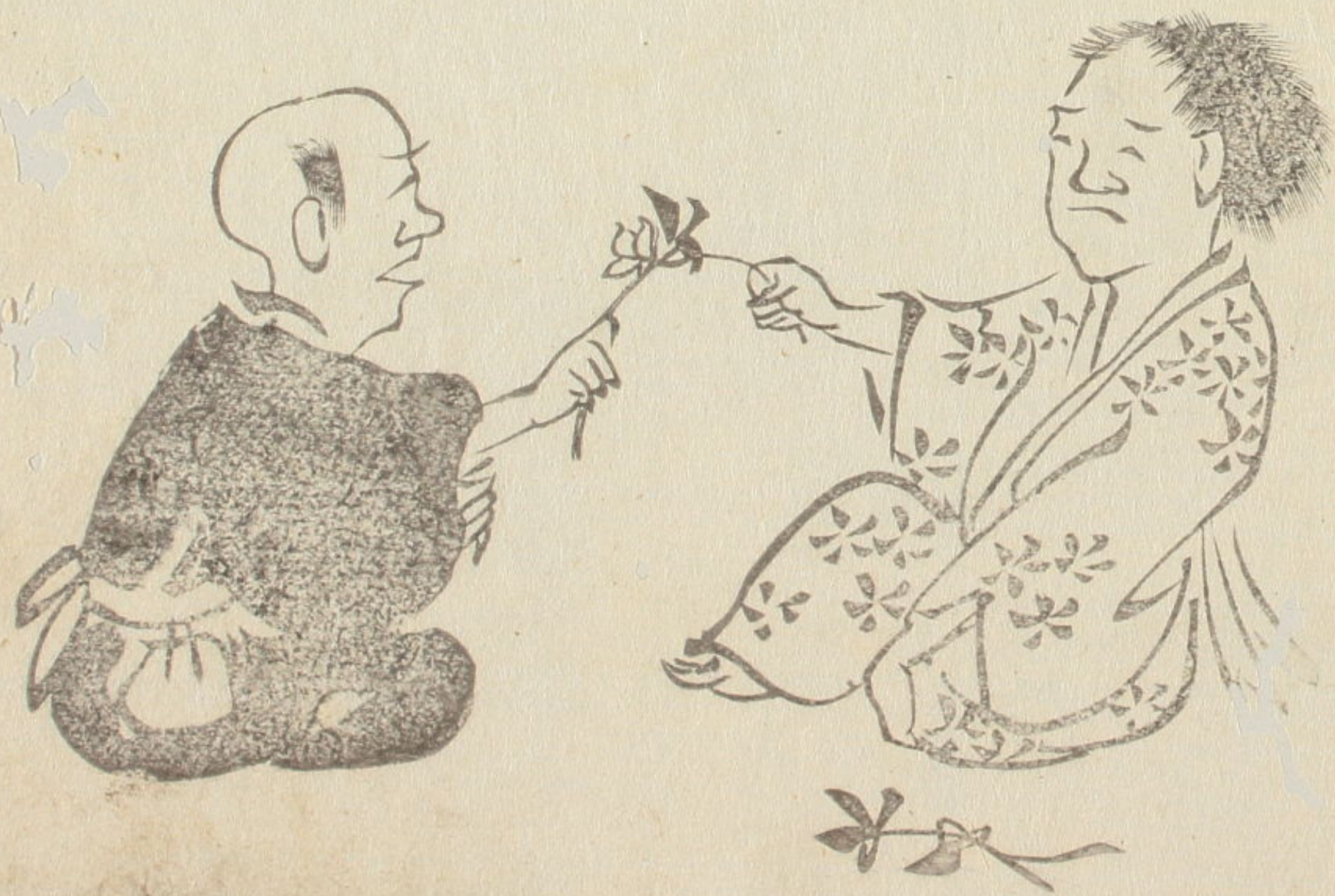


今年
 こころ
 出せし
 摘り
 翠雲令
 星水



梅とく
 兼名
 石塚
 十字亭
 一西川の眉も清し
 長久の松西





甘牙抜ゆ身よ
 夜風このえい下吹

瀛洲

あゝやうら
 ちゝららら
 片のそと
 老鳥



鳥
見乃

ちよん

武橋父大

青柳金

青柳金
 女計
 花
 降
 日
 田
 素
 元
 氏
 圓

一
ひさかたの道
終つての世

了當を事儀

たのむにや

しつゝのるま

夜はついで

巴の亭朝山



毒花を

ふりや

たのむにや

甲斐はく根小

ひさかたの道

情は

あはれをこころ

水と泡

暁水



田の中
何
ミ

元魁彦

山嶺玄



美白川在

梅
あ

雲
庵

あ
の
春

あ
の
春

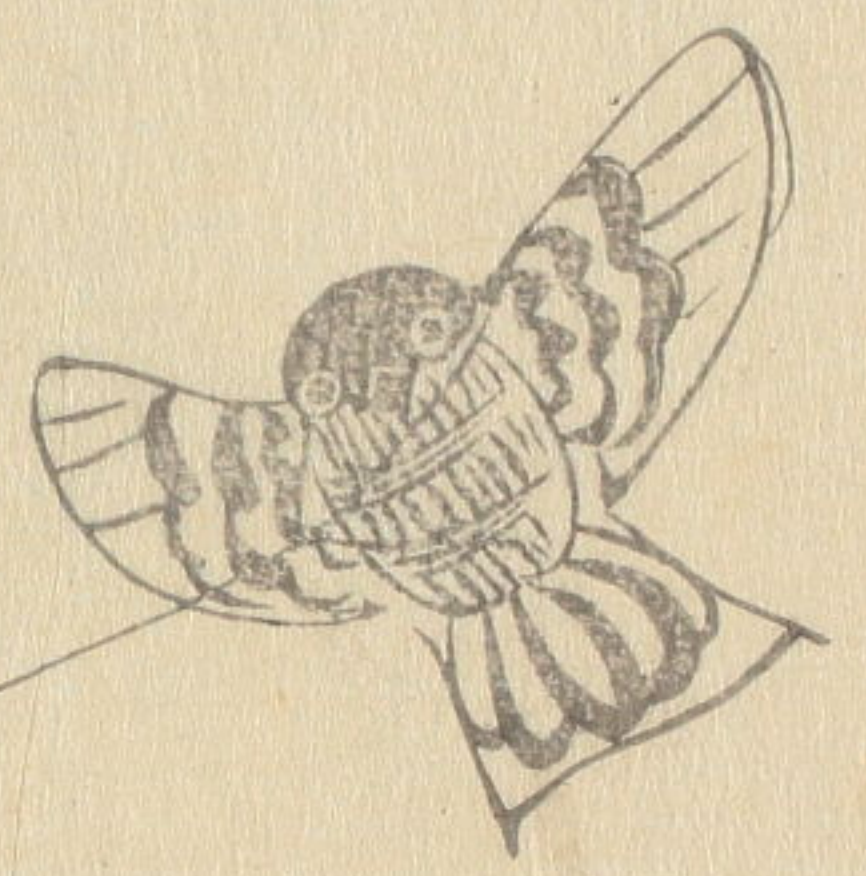
あ
の
春
あ
の
春

福
丸



山

在青臨為津
 白川
 晚春舍
 子好



何
 親
 何
 何
 何

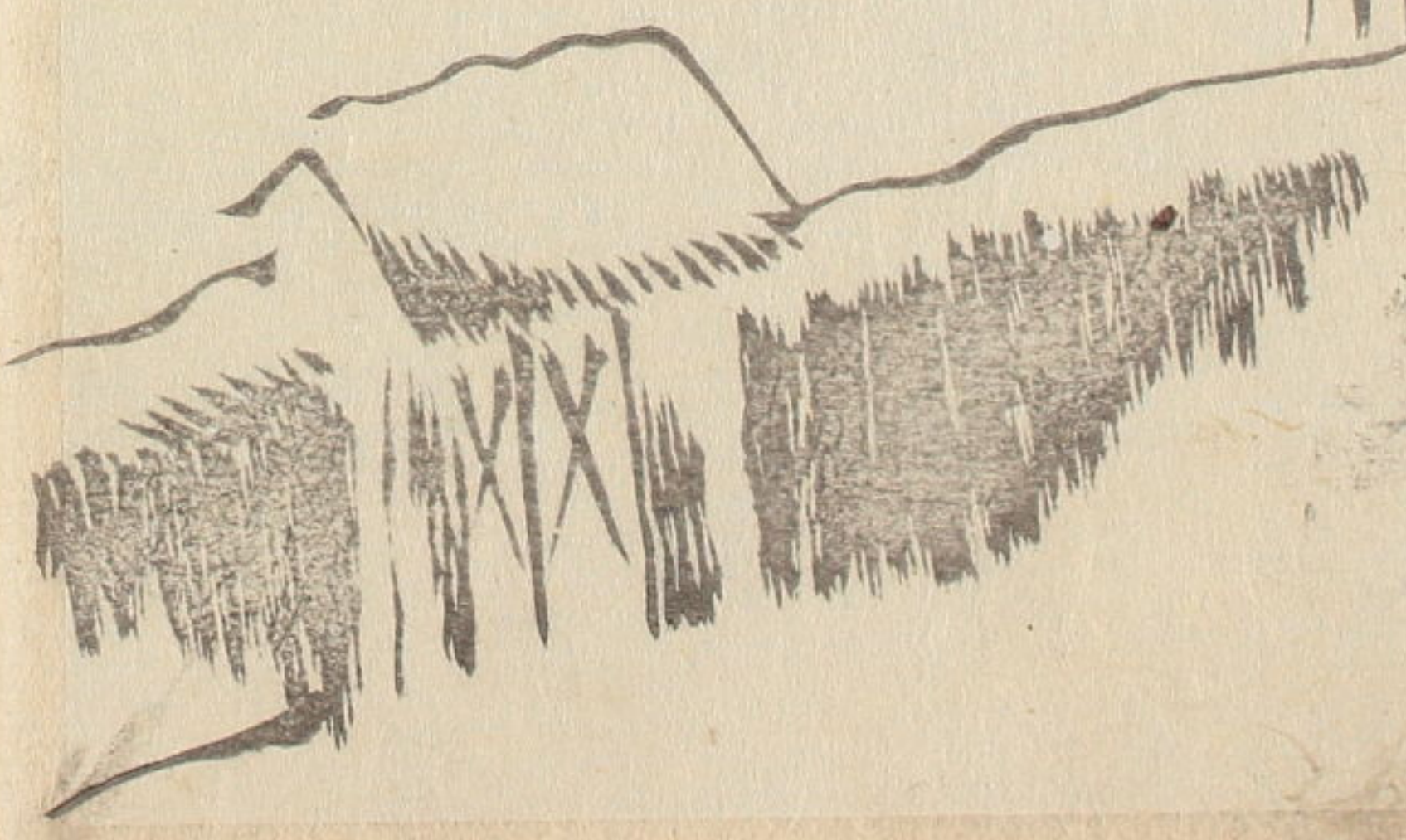


親をく女子在
 旅を袖のそり
 下をま
 山をりまの程
 まるこ
 白兔人
 野月

母 識 是 之 信 之 心 形 也
 伊 之 妻 也 亦 恋 也

空を江歩不き
 心計本を指れ給
 杜陽軒 拈一

沖中社
 船ありて
 春日
 駿府 照見亭
 老泉



唐土の日記
人並に色
そと表

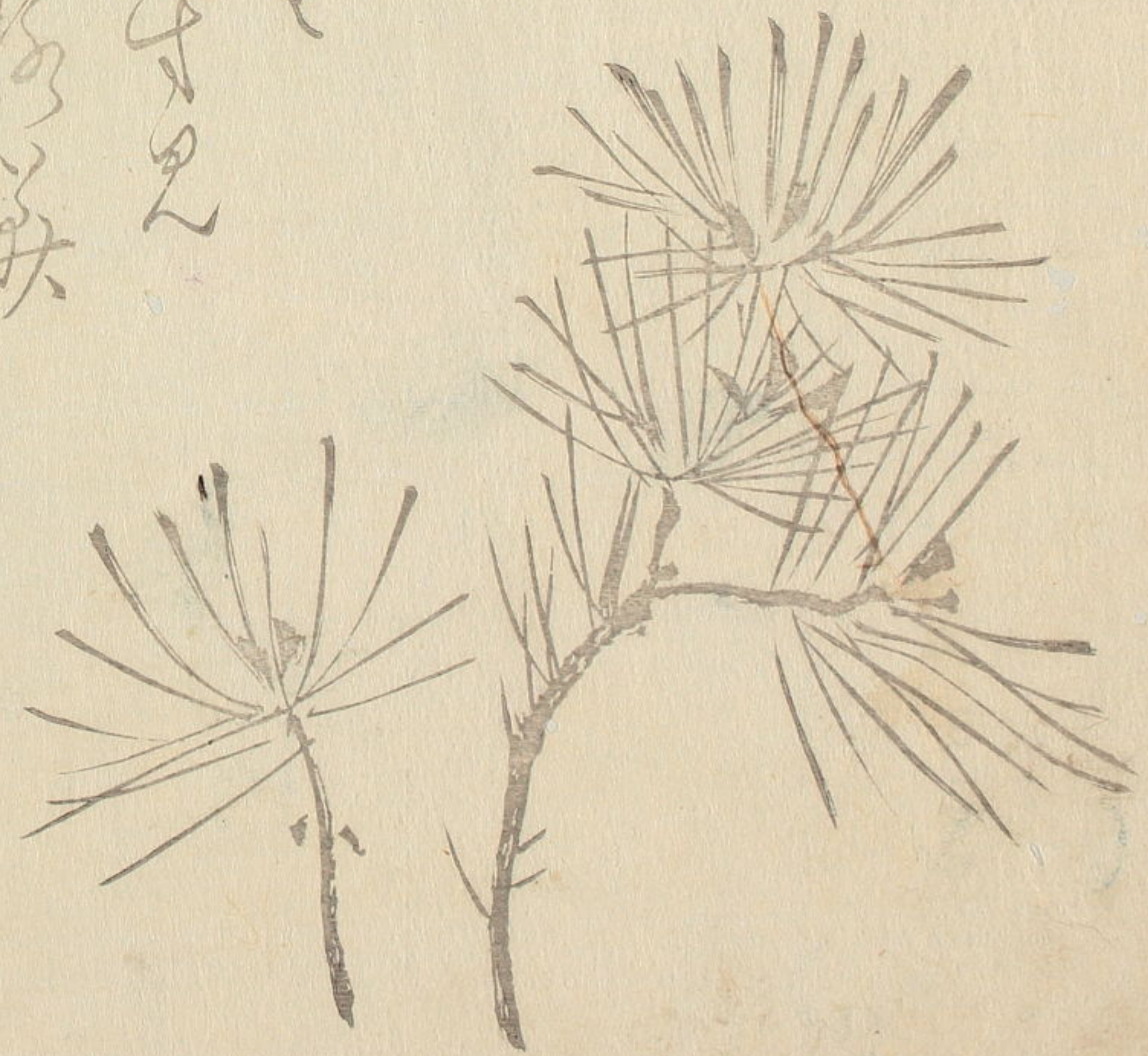
旭鳥

窓を
くま

花

花

梅



く伏拵

白

花

上毛

金

里
花

花

其

玉



悔^レりて^レ舟

り^レて^レ舟

心^レの^レ舟^レの^レ心

玉^レの^レ舟

舟^レの^レ舟

隙^レの^レ舟

隙^レの^レ上^レ

山^レの^レ陰^レ

翠^レの^レ園^レの^レ舟

舟^レの^レ舟^レの^レ舟^レ

舟^レの^レ舟^レの^レ舟^レ



藤原のよきもの
を備けたり
とせよの先記

時子
若菜眉

一日の担出

お人々

とらむ

宝場 西宮山馬



とらむの
天のま

小高
月齋
兔山

梅

とらむ
とらむ

とらむ
とらむ

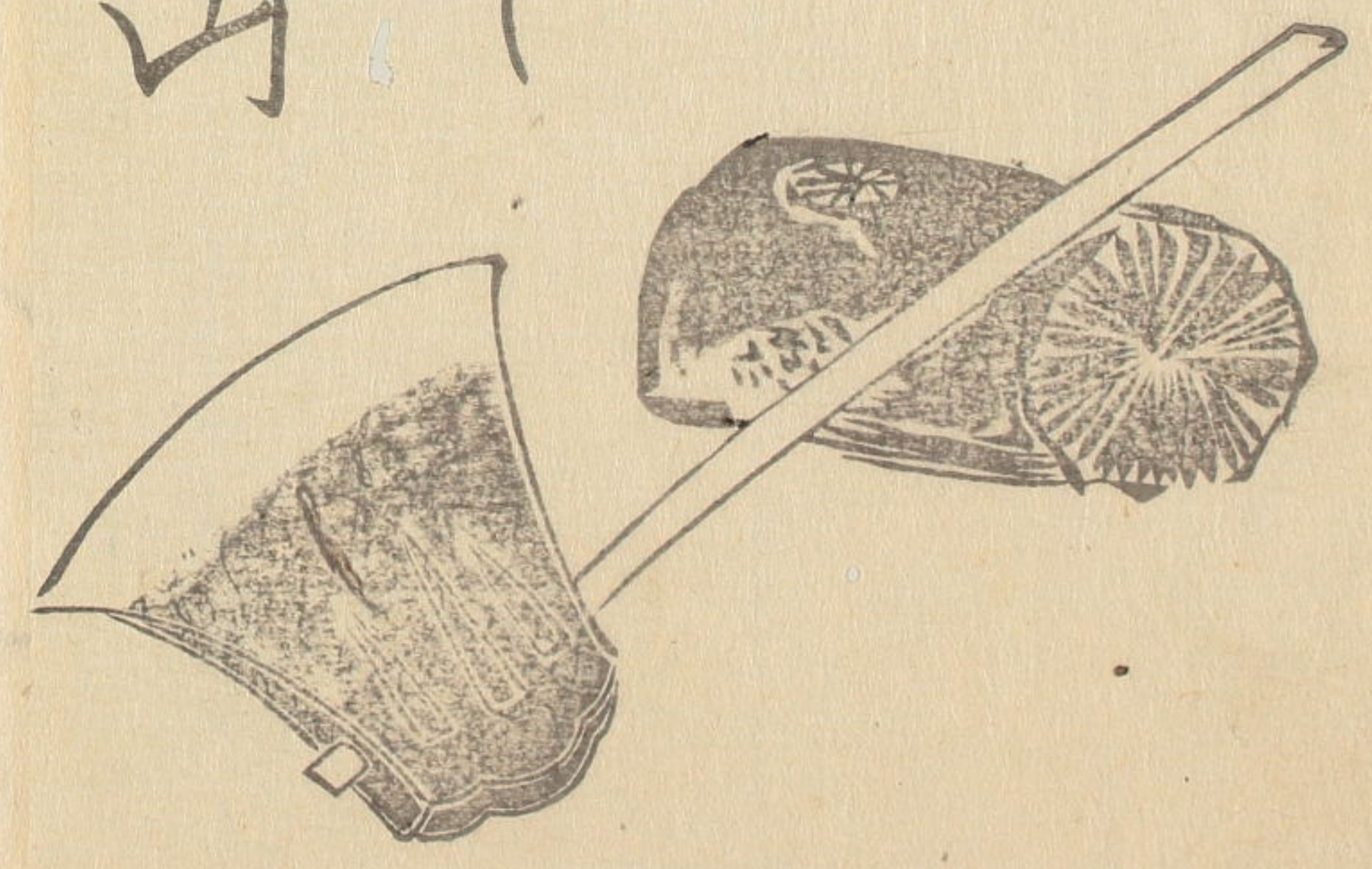
空つゝぬき
あさよと朝の
こゝろ

香海草の

あはれ

海草の

日の高し



くさくさ
あはれ
あはれ

あはれ

あはれ

あはれ
あはれ
あはれ

あはれ





後か一頁

白鳥の
草子

松乃之風

あまのつばき

〜女

白鳥の
花丸

光
解
本
の
大
年

民



光

油

光

油

程



好意の情をいふ
あはれをいふ
あはれをいふ

翅白

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ



春風や

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ



入りやあゝ
こゝろさるる
はるる

紫雲

於人さうふ
夜のさうふ
さうふ

岨乃松

宝持直行
孝子



あまのの隈

あまのの隈

あまのの隈

宝丘
紫雲

あまのの隈
あまのの隈
あまのの隈

青子



去々々々々々
宿里々々々
山々々々々
記

信北持

梅陰



め
歩
田
批
星

去々々々々

宿里々々々

山々々々々

中里

雲山直江

山





浪久保

白蓮舎

玉仙

昔の如くやあるは時中
 ありて年とあしかりは来ると梅の空
 梅咲て毎の海流のふ
 梅の空 梅の空
 梅の空 梅の空
 梅の空 梅の空

殺代の嘆は
梅はよみ未の柳

大宮

さきまの店
あつた

仁土のま

花のま
あつた

さきまの店
あつた



八土の

花のま

あつた

さきまの店
あつた

あつた

あつた



赫しと水の
水と井
深の海

一水

力
志
於

如
白兔



早

手紙候は出丁
不特
歩判書起
とらへる農起

抽那

あきし〜し記
かぬ〜あとな
〜し〜り〜

花噴

透常

香の向中
梅小土運子

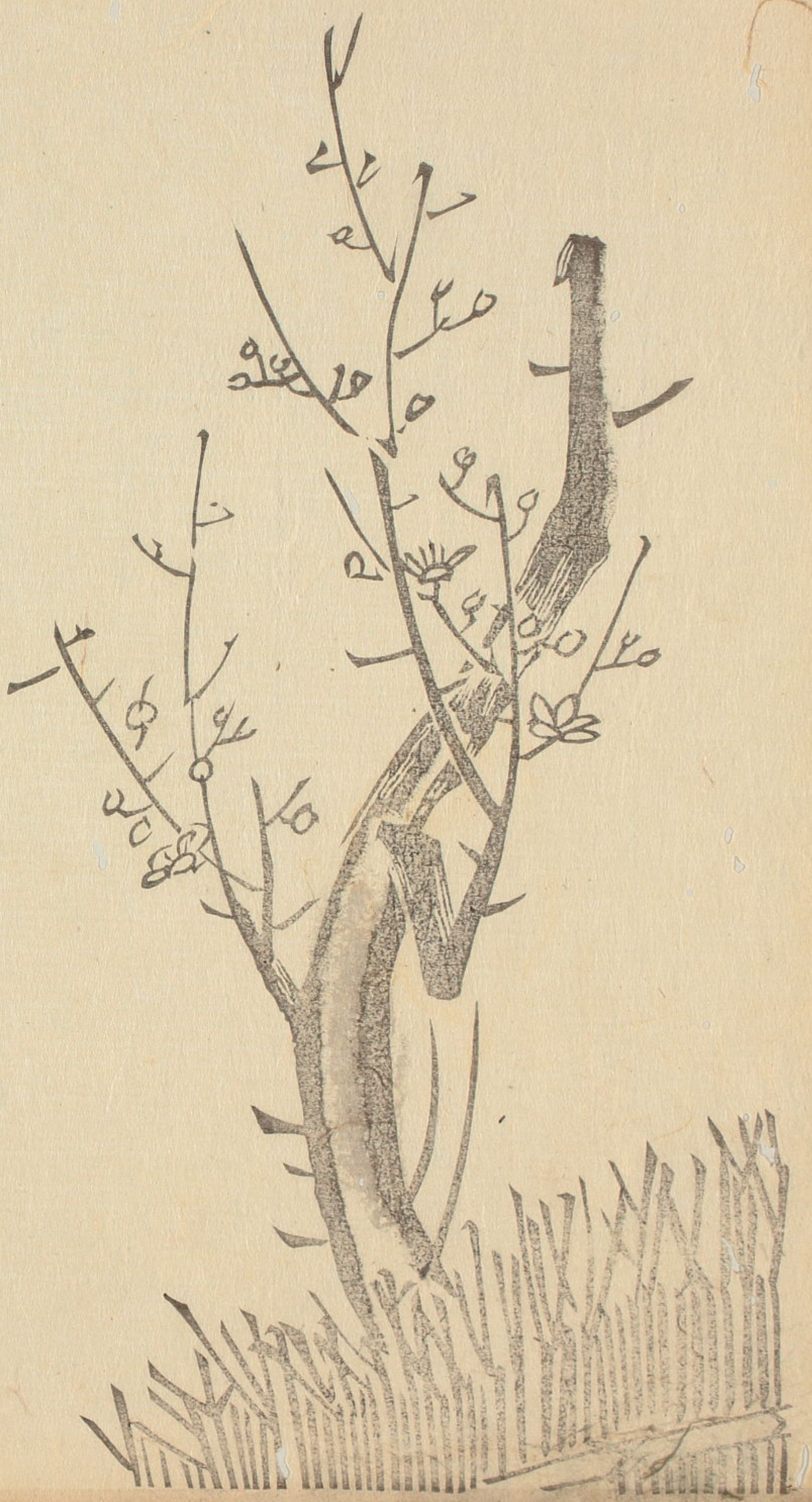
ある

旅人のあはれ
之れ

甲州身色字家

眠る屈書外





八音本

繁く樹をふくむ下なる梅 松化

月のまはる花のよき置梅の形 計梅

信光持

梅咲くを仰ぐ者な可なり 和心辨 玄頌

花はさかすめりて 花足

元
 新
 代
 素
 足
 上
 季

曙
 鳥
 鳴
 け
 ぬ
 け
 る

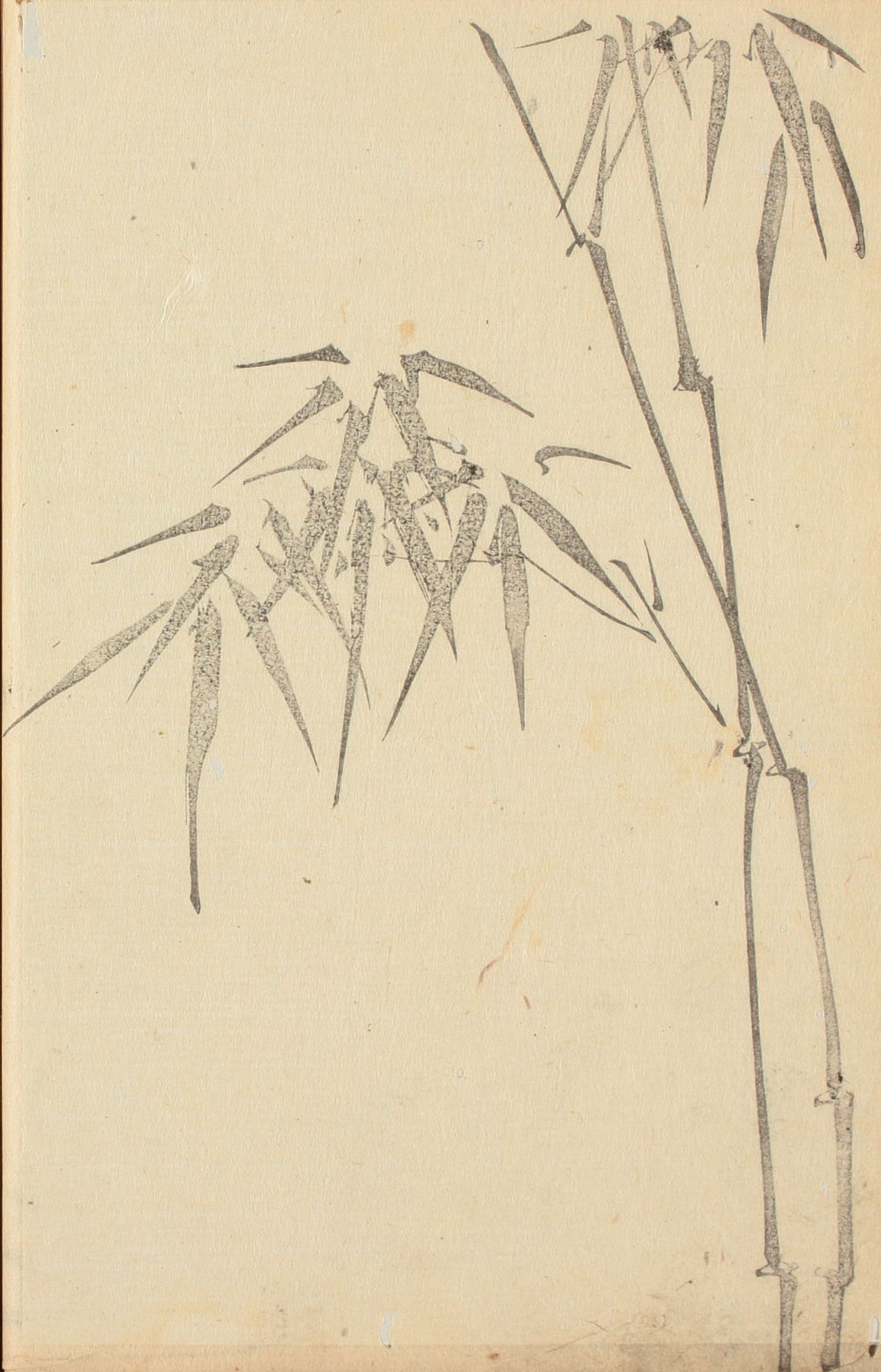
麓
 の



夕
 陽
 照
 り
 ぬ
 る
 白
 雲

暮
 色
 蒼
 蒼
 空
 中
 飛
 ぶ
 鳥

か
 げ
 鹿
 心



一夜の夢をいそぎの夢の夢に次ぎて
人し乃ははらへてまゝりて葉は白
新ちをいそぎの夢の夢に次ぎて
はらへてまゝりて葉は白

度

乃

至

二

葉

文

東風をよみて度けよ
出のよきとて直馬

上并 昔々 齋
サニユ 二二枝

糸のたぎのふあり
そのれをよみて清涼

、 芝草を履
旋之

と揺 鈴のたぎと

さるまじ

二月をけ

、 東の翠々
子 花子



ハコウ子

宝四折の佳

は、 花のたぎを
よみて度けよ
芝草を履

海根はく浅

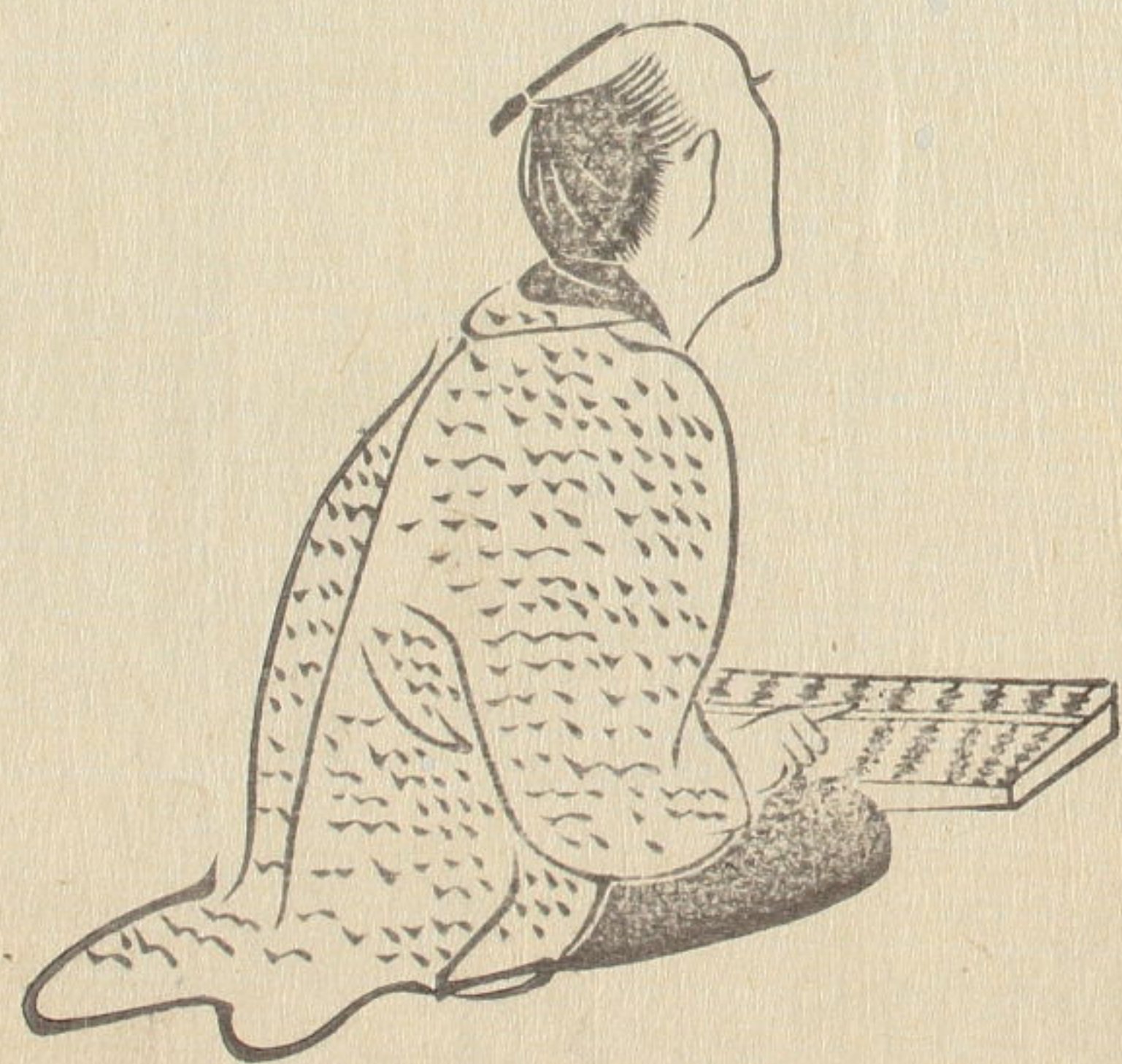
出のよきと

見よみて度

下忍 ノブト
呉山



我至
 字
 後
 等
 田
 繁
 有
 山



北
 新
 川
 在
 好
 世
 子
 拵
 吹
 風



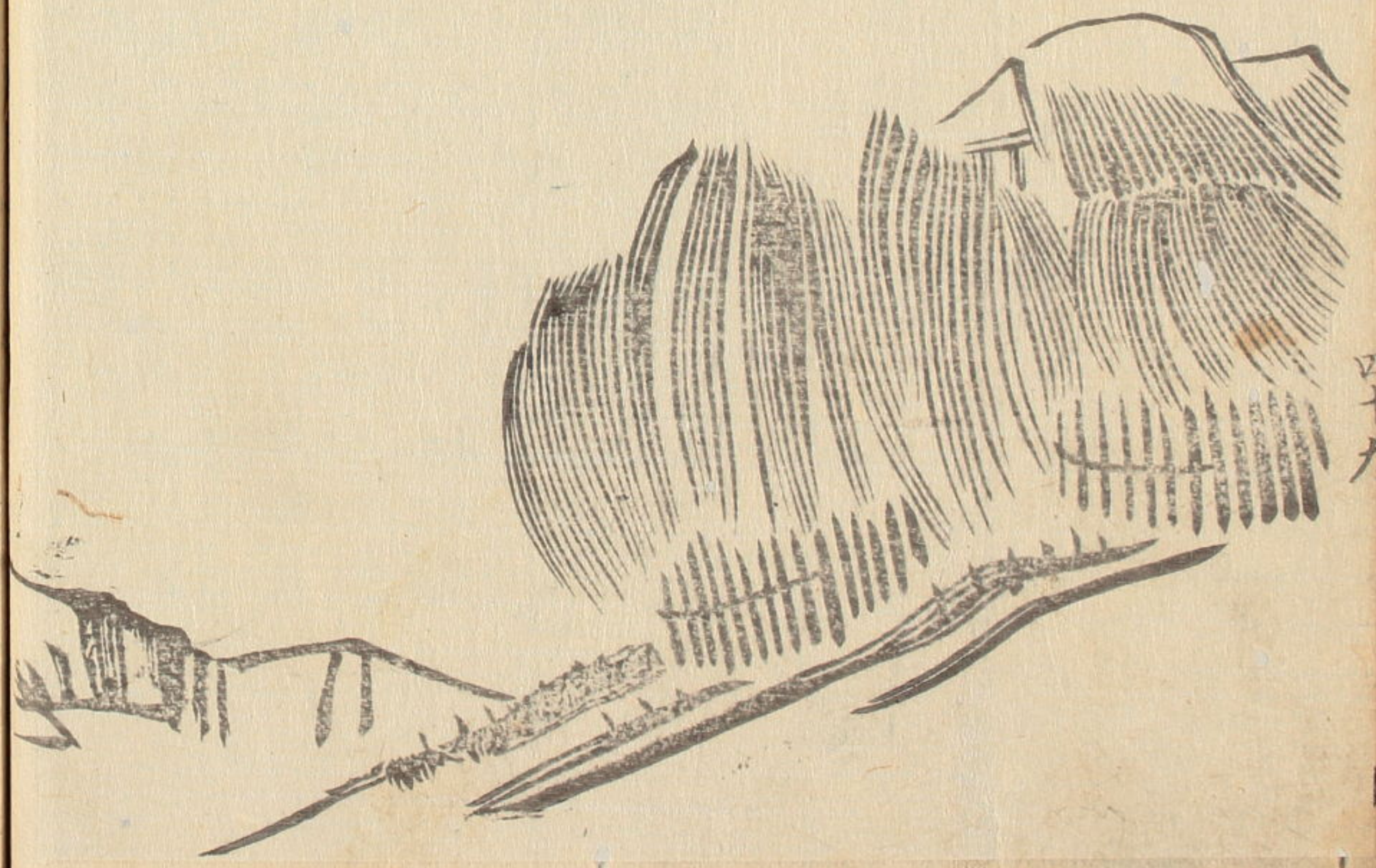
秋の松

うららかに

友と
あそぶ

琵琶

湖友



朝陽

いかに

天
柳

ま

星

松



隆義
在東武

宝子園

真之驥

夜さくら吹く
花白



此の目付の
かゝる花

新川 海良

くさむらさき
天つ

あまのり
母の字

公良崎
里春



糸井の若さ
目下の子
くまのふり

史記女

て
て
て



さ
て
て

て
て
て

さ
て
て
て

松
て
て
て

川女

花

波のうねり

さつと

たつた

月夜

の歌

宝静石

蘭窓



たつた

たつた

新存夜
如清

北条

の歌

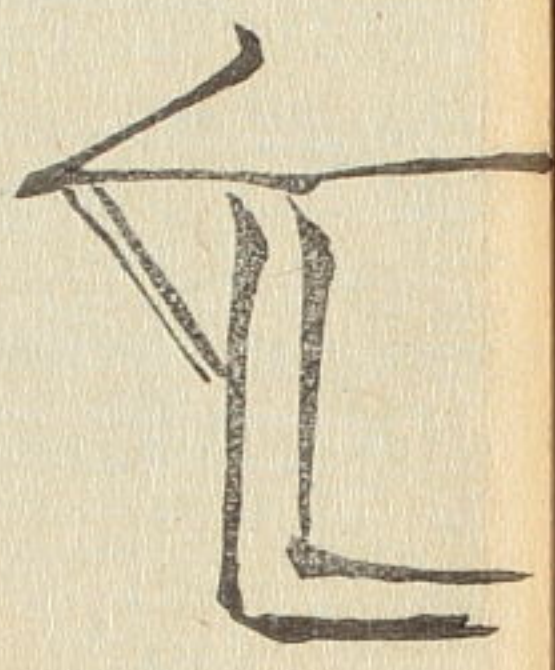
たつた

林有菴清季

友と
人の
老い

南鹿齋
壽山

川の
於
宝



杖
鹿
甲

又

白の鳥居は年人よきを
半平七の如く

看山亭
寛永

ふん

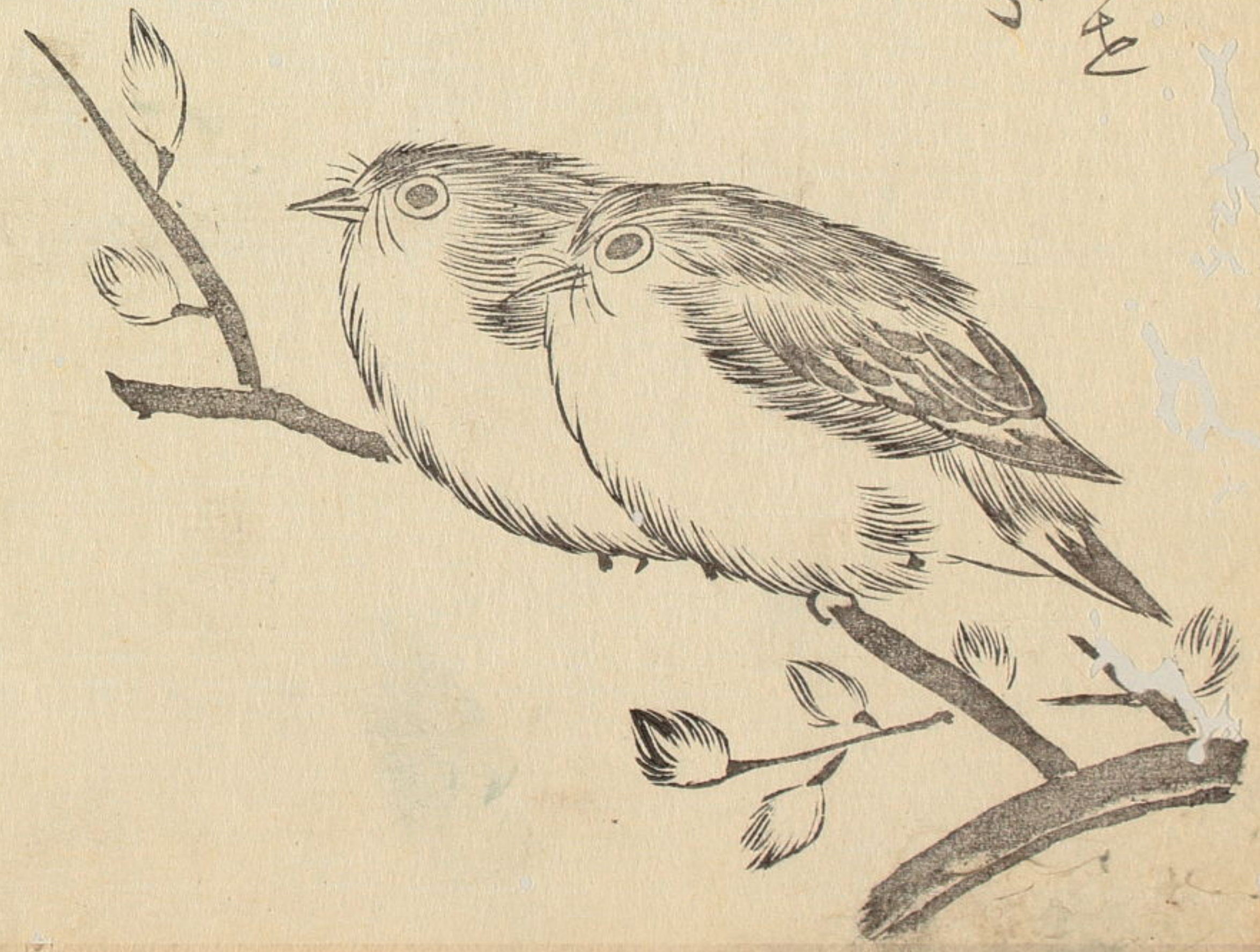
さし

子

夏見川南

ふん

渭淵



帆東

く

大宮 一西 乃

飯神の指ふ

ふ

雪 羽



明白き魚

白のしん

魚の尾

長き岩

境友麻 皇嘉



しん

しん

止

甲

峡峨麓 梅里



子孫を為す
自はしとて
於てあり

宝の金に
如き

新風也

保つて
存す

志は
たゞ

心の中
に
存す

民交



すなはち
徳也

生
れ
て
死
す
は
一
也

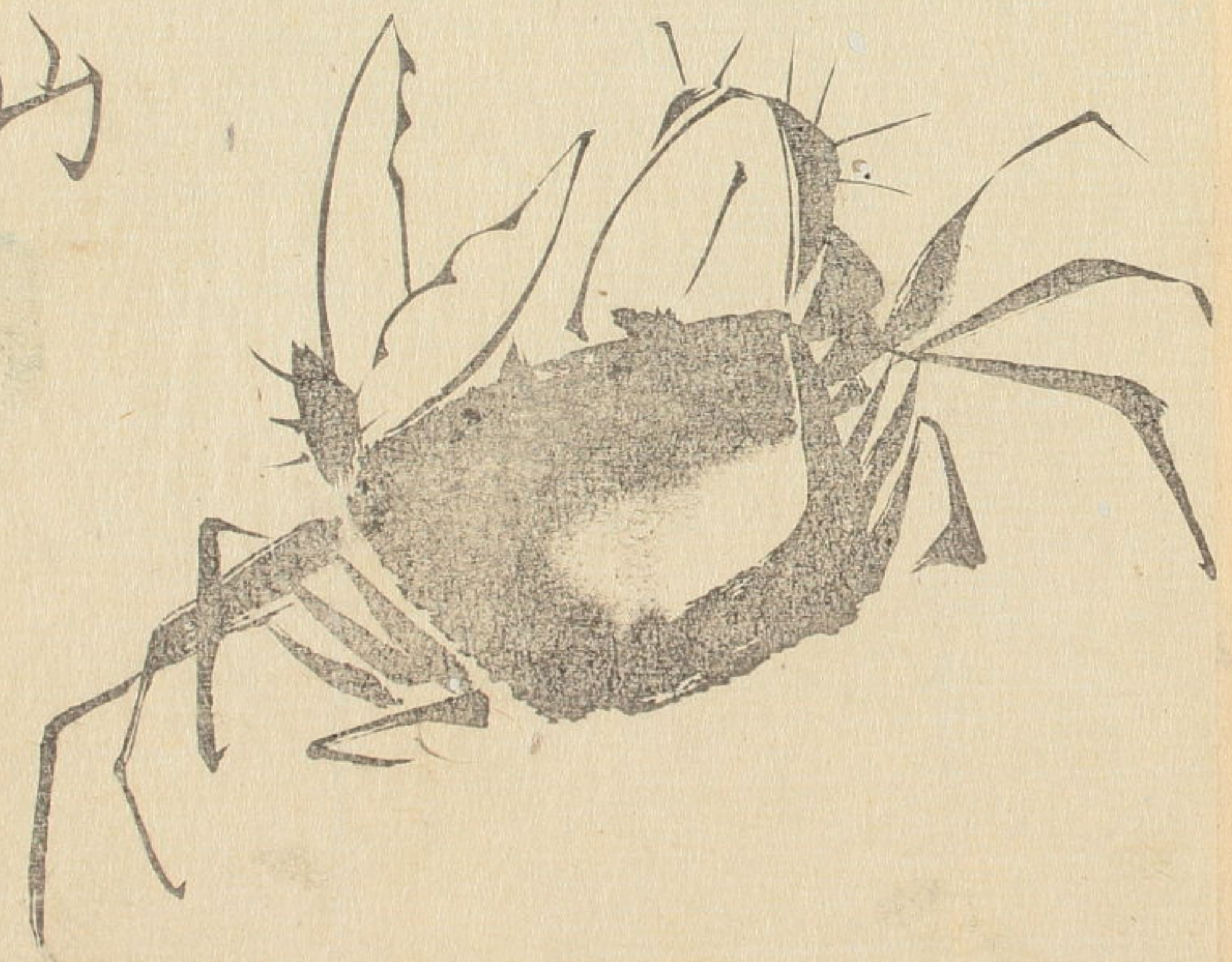
赤山

山
の
心

山
の
身

山
の
心
と
身

赤山





狐の尻尾

を切る

と云ふ

大夢

其言

其言

常州
天妃山之圖



松園連

石堤
草花

ささげの砂を
かきよこ

草花

ささげの
すれよ

本魚

柴人



思ふ女へ
あはれ
あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ



昔はかたがは言ふに
さすはしめしる事

中かたがは言ふに
かたがは言ふに
かたがは言ふに
かたがは言ふに

いふは言ふに
いふは言ふに
いふは言ふに
いふは言ふに

いふは言ふに
いふは言ふに
いふは言ふに
いふは言ふに

石園の星は美を
いふは言ふに

いふは言ふに
いふは言ふに
いふは言ふに
いふは言ふに

いふは言ふに
いふは言ふに

いふは言ふに
いふは言ふに
いふは言ふに
いふは言ふに

此の如く

本
の
影
を
記
す
に
似
て
記
す



六十一



清徳の海をこころいふ
 ことと浪一井樓ふ記
 多士見ては
 春日浪とて高亭鳥十
 素心袍とて報ふは
 松村老白雲の案

まめ花の
静を
見流
と

白園
雪父



梅の
干に
小丸

招梅
雪父

蓬
草

立
白梅園

雪父

白松
雪父

雪父

梅のつぼみ

川の花

蒼苔

挂菓

花のつぼみ

小のつぼみ

清見酒 浦



子母のつぼみ

共草 芝草 廣兔交

建地

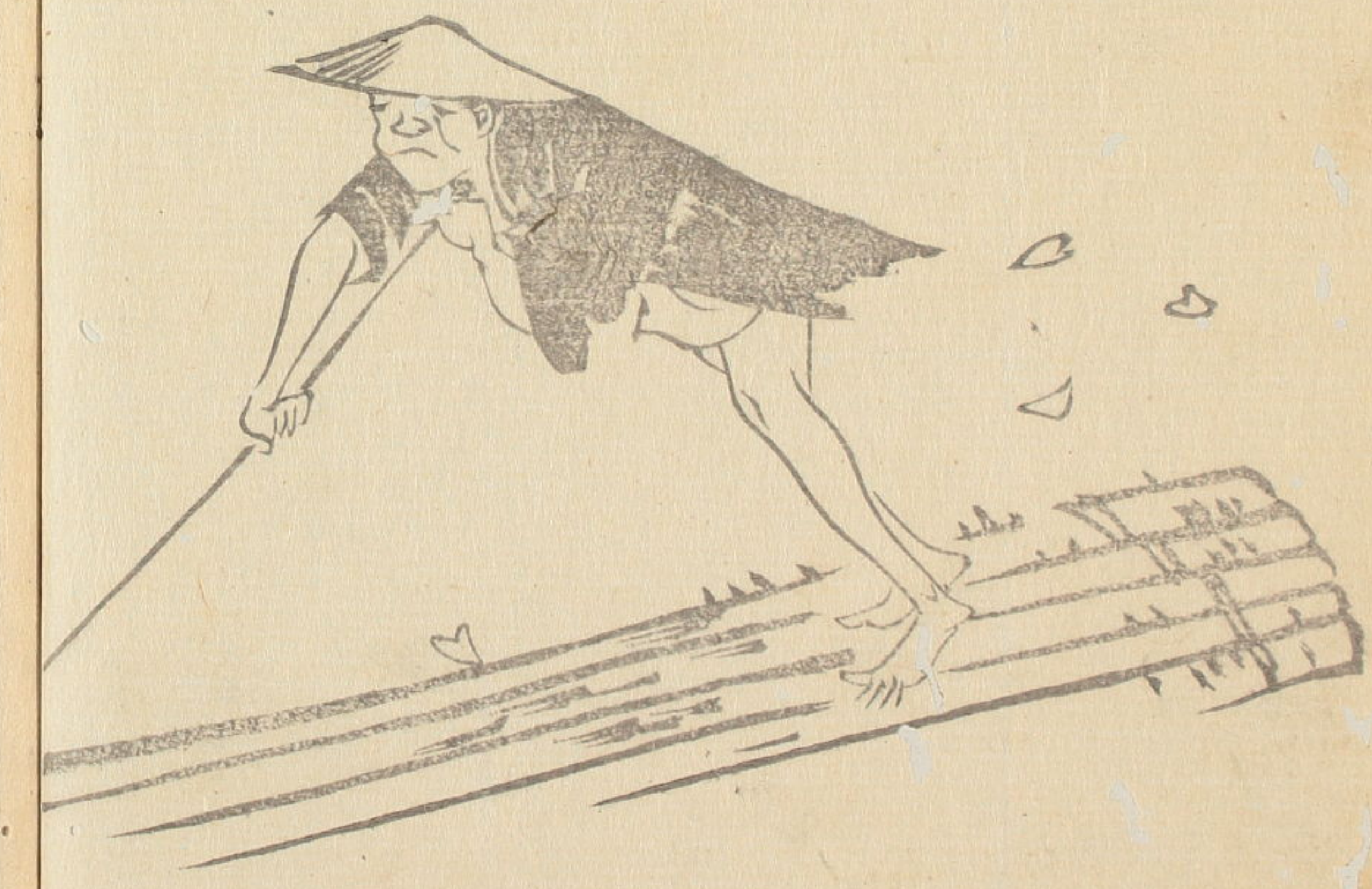
女のつぼみ

宝香のつぼみ

作也しと
柳の子をいへ
旬知也

甲
三日市坊
永醜

あまのこ
と
箸乃



包い
ぬ道中

規桂堂秀意

けりまをさうりあふふ床
多本子下をこの子
親有之存白本乃
一ノ母れ婦子守古
一の上規書者徳族



吉原の白蛇の巻
柳の枝

下サテ溜

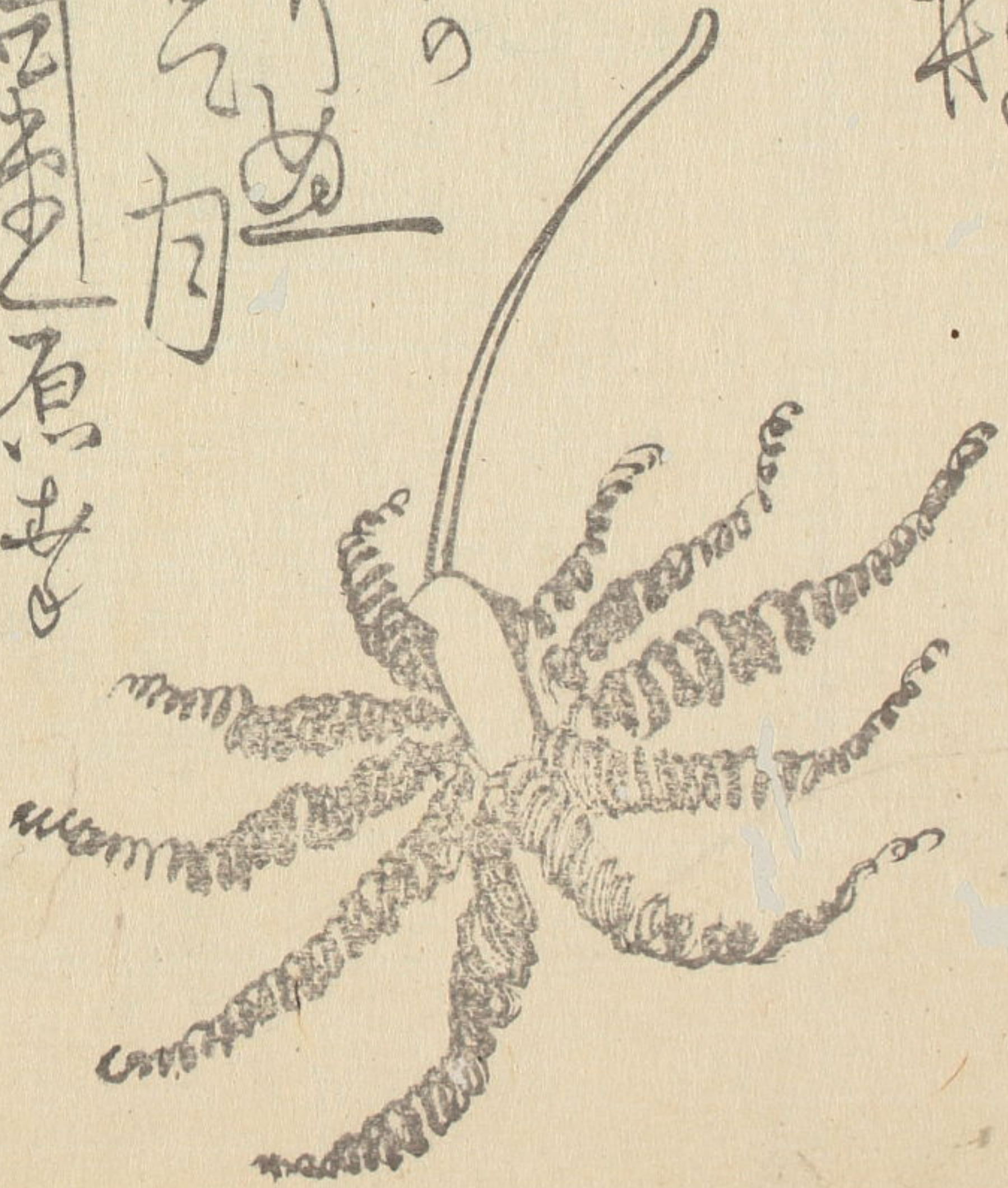
絞月

昔は布屋松の

二回忘つてある

於本屋月

毎時可也原也



いほつちまやの巻月子
の巻月

公一巻月

いほつちまやの巻月子
の巻月

公一巻月



葉字

新
筆
指
見
り
ぬ

下毛大田川

葉字

於
持
拭
の
指
で
ぬ

字
の
山
字
の
納
と
子

指
を



月潭

句庵に在る

跋

年深き

静

竹のこゝろの静のふりかへる月の出

降のふりかへる月の上

大さうの除のたのむる月

三日市川

汲上り井筒の水やさる鳥

松林

山形も霞のまじりたる月

指差す桂湯りのいづれ月

船子出た日のまじりたる月

夜水

静のふりかへる月

春の息

お花畑のなまはらぎを毎て春を

松杜

草のむらさき色に花の影を

足藩

水鏡の光をたぐひて春の

弄淵

流石のふかき水に花の影を

秋長

五七のうらみ花の影を

何丸

春のなまはらぎを毎て春を

護如

人あはれをたぐひて春の

蕉白

梅影をたぐひて春の

州妓

春のなまはらぎを毎て春を

風若

代官の花ははらぎを毎て春を

挂那

よの光をたぐひて春の

隅田丸

鈴のなまはらぎを毎て春を

元風

お花畑のなまはらぎを毎て春を

寛山

春日望

さきの水いぶ途ふらふとあつたて

仙瓢
眠帝

おのれいさのほろをかりし解まら

左彌

花もきり何へいかなるおひのたき

本之

まの葉おけおとをまらうつ其のゆ

墨五

いづ子彦彦

おのれをわけておのれいさのや所のま

風馬

る休るのよ風のしきりしもの

白其

さきの葉おけおとをまらうつ其のゆ

擗山

白鬼の二寸よとくぬけまら

柳矢

のちいりり影あつた柳の影

擗六

車馬

さきの葉おけおとをまらうつ其のゆ

風松

さきの白三粒厚くしつ隅田川

古友

さきの水いぶ途ふらふとあつたて

さき

さきの葉おけおとをまらうつ其のゆ

一山

岳樹の影移さく春の海
とあの中はくや月影を
水流して空の橋を

花城
葉傳
山多

春の海の水を色見中梅を
明家と淋しき山の水の花
おどろくぬ急なる山のうねり

高阜
鹽布
花城

春色

ぬくこと忘るるは春の光

春阿

春の海に梅を
琵琶の音ぬ人衣さく梅自
野のそとれはくは春の海
猿の影さくは二月の光
芥持の底くは春の海

魚雲
老鴛
清
如
社

白くは春の海
お梅や人の眼を
梅の影さくは春の海

水
万化
素

窓福のおよしをさするおのれ
 眼ハふ小盛時年 八敷の田面
 面倒な梅よきごみけぬる是
 裾裾おる方や梅よ小控竹
 溜水 外家 溜水

長 奥

け枝よこの曲りあへり女のをと
 北ゆきの中よまきこし柳り好
 正自や自頼斗おまきか
 往強 善つ 逸山

嬉しとまふこころしつる物世
 咲初る花を雀の觸るあそ
 咫丈 園南

梅前 飯をさくちく目よ
 人せむ山の奥よの風一のや上
 早の風とさく汐よすや梅のさ
 田のくみの花葉よもさおあふれ
 曳船や柳をかたしりし村
 湯水 万頃 湯水

たのむにやむしきしるふし
歩切森の物さ
妻ゆよ腰
梅草居祀
万山

縁ふと名持々々
葉山

浦ゆや松のゆ
孝力

糸のゆ
葉太

妻の宮
佐秀

丹面
神等

指さの
赤臺

妻
青飛

く
其音

夕の
葉晁

赤
さく賀

大尾

坂喜二代水之去

明
坂
武
藏

祖翁忌

十月十二日

寧和忌

十月五日

吳隨忌

九月廿一日

連洞立の凡百の具言流一もく筆外

右只能子於海屋與刊

